CHUKYO UNIVERSITY

文学部言語表現学科　教育課程編成・実施の方針

文学部言語表現学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

文学部言語表現学科のカリキュラムは、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く全学共通科目と、学部固有科目で構成されます。

＜専門教育課程（学部固有科目）の構成＞

１．卒業所要単位は 125 単位であり、学部固有科目は以下の科目群に分けて編成します。

①言語による表現全般を研究対象とする言語表現学という学問を総括的に捉え、基礎科目として、「言語表現学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本語学入門Ⅰ・Ⅱ」「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」「文章技術論Ⅰ・Ⅱ」「キャリアデザイン」を配置します。

②基幹科目として、以下の科目を配置します。

②－１　日本語及び日本語文化に関する科目：「レトリック論」「文字の文化史」「社会生活とことば」「現代日本語論Ⅰ・Ⅱ」「地域とことばⅠ・Ⅱ」

②－２　コミュニケーション文化に関する科目：「メディア・リテラシー」「実践話術」「広告文化論」「芸能文化」「身体表現」「広告の現場」「映像文化」「議論の技術」「コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」

②－３　書物・読書文化に関する科目：「編集の実際」「読書の文化史」「出版の文化史」「翻訳論」「情報の倫理」「創作Ⅰ・Ⅱ」

③各自の興味・関心をいっそう深めるために自由に履修できる展開科目として、以下の科目を配置します。

③－１　日本語文化に関する科目：「日本語文法Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声学Ⅰ・Ⅱ」「情報技術とことば」「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「書道史Ⅰ・Ⅱ」「書論」「書学」「日本文化史」「民俗芸能論」

③－２　コミュニケーション文化に関する科目：「メディア史」「コンピュータ活用技術」「コンピュータで学ぶ文章作法」「ジャーナリズム論」「広告制作」「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「映像文化」「芸能とことば」「芸能文化」「話芸の世界」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」

③－３　書物・読書文化に関する科目：「大衆文化」「日本文学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」「上代・中古・中世・近世・近代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中国文学を読むⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「図書館概論」「図書館情報資源概論」

④①～③の科目で養った能力を活かして、卒業研究を完成させるための演習科目として、「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」を配置します。

２．本学科では、次のように段階的な学びが行えるようカリキュラムを組んでいます。1 年次に基礎科目（17 単位）を履修し、２年次に基幹科目の選択必修科目から 12 単位以上と、演習科目である「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（4 単位）を履修し、これを学問的土台とします。以上の土台固めをしながら、自身の卒業研究テーマをにらんで展開科目を履修し、３・４年次に演習科目「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」（8 単位）を履修し、卒業研究を完成させます。また、隣接する日本文学科及び歴史文化学科の科目も卒業所要単位として合計 8 単位まで算入することができます。

３．本学科カリキュラムの中に、以下の特色を持つ科目を設置します。

① 「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」: テレビ局で活躍する現役のアナウンサーによる講義と実技によって、「会話力」「話す力」を身につけ、言語の表現力を養う。

② 「芸能とことば」: 日本の伝統芸能である「狂言」を講義と実技によって体感する経験が得られ、日本文化に対する奥深い理解を身につける。

③ 「広告文化論」: 広告に使われるキャッチコピーを細かく分析することにより、言語表現の様々な様相を考え、広告の文化的要因を明らかにする。

４．「学修成果」と科目との関係は、以下のとおりです。

① 日本語及び日本語文化の諸側面に関する基礎的な知識を有し、また理解している。
「言語表現学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代日本語論Ⅰ・Ⅱ」等

② 「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を経て、情報を正確に理解し、的確な日本語で自身の考えや思いを表現・発信することができる。
「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」「文章技術論Ⅰ・Ⅱ」「実践話術」「レトリック論」「議論の技術」等

③ 言語によるすべての表現に対して社会的・倫理的な適否を的確に判断することができる。
「ジャーナリズム論」「メディア・リテラシー」「編集の実際」「社会生活とことば」「翻訳論」「情報の倫理」等

④ 従来の文学のジャンルを超え、絵本、マンガ、映画等、言語による表現を伴う幅広い分野について、それらを学問的対象として捉え、客観的・科学的に観察・分析することができる。
「読書の文化史」「文字の文化史」「出版の文化史」等

⑤日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」等

⑥卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。
「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「図書館概論」等